

## 令和7年度『豊かな心をはぐくむ家庭づくり』作文 最優秀賞

小学校低学年の部  
最優秀賞

### だいすきなじいちゃん 近江八幡市立八幡小学校

1年 松井 弦  
まつい げん

ぼくは、じいちゃんがだいすきです。じいちゃんはおかあさんのおとうさんで、いぶきやまのちかくにすんでいるから、「おやまのじいちゃん」とよぶこともあります。

じいちゃんはおもしろいです。よくじょうだんをいいます。おもしろいかおもします。いつもわらっているから、ぼくもいっしょにわらっています。

そして、とってもやさしいです。とまりにいくと、ぼくはよく「むしつかみがしたい」といいます。じいちゃんは「いいよ」といつて、なんかいでもつれていってくれます。ぼくがすきな、でもつかまえられないかなぶんやとんぼをつかまえてくれます。

じいちゃんはやさいをつくっています。いんげんやきゅうり、じゃがいもなどをばあちゃんがりょうりしてくれて、ぼくにたべさせてくれます。いちばんすきなのはオクラで、「じいちゃんのオクラ～」とうたいたくなるくらいだいすきです。あついなかでも、ぼくたちのためにはたけにいってくれています。これからもおいしいやさいをつくってね。

じいちゃんのうめジュースもおいしいです。あまずっぱくてすかっとします。またのみたいから、よろしくね。

そして、じいちゃんはビールをのむとごきげんになります。じいちゃんは、「はたちになつたら、いっしょにのもう。」といいます。そのときは、はやくはたちになりたいなとおもいます。みんなでのんだら、おいしくて、たのしいだろうな。

きょねんのクリスマスのとき、ぼくはみみのしゅじゅつをするため、にゅういんしました。じいちゃんはすごくしんぱいしてくれました。ぶじにしゅじゅつがおわってたいいんしたとき、いちばんにじいちゃんにでんわをしたら、「よかったね」といって、とてもあんしんしてくれました。

そのすぐあとに、じいちゃんがめのしゅじゅつをすることになりました。すごくしんぱいしたし、あえなくてさびしかったです。たいいんしてからすこしのあいだ、じいちゃんはぼくのいえにきました。ひさしぶりにあえて、なおったんだとおもってうれしかったです。じょうだんをいっていて、いつものじいちゃんだとおもいました。

そんなじいちゃんにおこられことがあります。ぼくがやんちゃをしたり、しなきやいけないことをあとまわしにしたり、いもうととけんかをしたりすると、こわいかおで、「げん!!」

といいます。いつもにこにこがおなのに、きゅうにこわくなります。でもしばらくすると、いつものにこにこがおになって、ほっとします。

じいちゃん、いつもありがとうございます。またあそぼうね。いつまでもげんきでね。だいだいだいすきだよ。

小学校中学年の部  
最優秀賞

私のひいおばあちゃん

大津市立晴嵐小学校

むらもと かほ  
4年 村元 楓歩

私の母方には、今年96才になるひいおばあちゃんがいます。一度大きな病気をしてから、おばさん家族と一緒に広島でくらしています。連休があれば、家族でひいおばあちゃんやおばさん家族に会いに行っています。私達が会いに行くと、いつもとてもよろこんでくれます。幼いころは、私や姉と一緒に折り紙を折ったり、色々な話をしたりしました。

去年の夏ごろから、ひいおばあちゃんの体調が悪くなり、急に元気がなくなりました。家族や親せきがとても心配していました。お母さんは何度もおばさんに電話をかけ、ひいおばあちゃんの様子を聞いていました。そこで、少しでも元気になってもらおうと早めのたん生日会を計画しました。

大分・大阪・神奈川県から親せきやいとこ達が集まり、広島のホテルでお祝いしました。ひいおばあちゃんは、みんなに会うために体調を整え、車イスでがんばって会場まで来てくれました。私のお父さんはこの日のためにスライドショーをじゅんびし、私と姉は写真選びを手伝いました。ひいおばあちゃんが滋賀に来た時や京都観光、赤ちゃんのころの私や姉をだっこしている写真、そして私が生まれるよりもずっと昔の若かったころの写真がありました。私が知らな

い時の家族や親せきの写真を見て、れきしやつながりを感じました。大きなスクリーンでそのえいぞうを流した時、ひいおばあちゃんやみんなはとてもなつかしそうに見ていました。

会が終わってみんながひいおばあちゃんとおわかれをする時、初めてひいおばあちゃんの涙を見ました。私のお母さんは、ひいおばあちゃんのことが大好きでいつも話してくれます。

「おばあちゃんの涙を見たことがないし、弱音もはかない。いつもおだやかで前向きで、おこったところも見たことがない。戦争を経験しているからとてもしんぼう強い。そんけいしている。」

と言います。

私のお母さんは、ひいおばあちゃんに会いに行って帰る時いつも泣いています。会えるのはこれがさい後かもしれないと思っているからです。お母さんの涙を見ると、どれだけ大切に思っているかが伝わります。今では、もう一緒に折り紙を折ることもできません。

私はまだ一度も大切な人や家族とのわかれを経験したことありません。けれど、生きしていく中でわかれは決してさけては通れません。悲しいけれど、一緒にすごした時間が私だけではなく、家族の中にもあります。同じ思い出やきおくが私の心の中にもあり、それがきずなとなってすぐに会えなくても、毎日一緒にいられなくてもつながっているのだと思います。

## 小学校高学年の部

### 最優秀賞

おはよう！パパ、行ってきます！

長浜市立びわ北小学校

いとう おうじゅ  
5年 伊藤 旺寿

ぼくのパパは、毎朝6時に家を出て、夜は11時ごろに帰ってきます。まだ外が暗い時間でも、パパは静かに起きて準備をします。それでも家を出る前には、必ずしん室やぼくの部屋に来て、家族みんなをぎゅーっと抱きしめてから仕事に向かいます。

「なんで毎日そんなことをするのだろう？」小さなころはただうれしかったけれど、大きくなるにつれて、ふとそんなぎ問がうかびました。

そのことを家の近くに住んでいるぼくのばあちゃんに話してたら、

「人は、当たり前のように帰ってこられるとは限らへんのやで。毎日家を出る時は、必ず家族みんなの顔を見ていくんや。前の日にどんなにケンカをしていても、必ず『行ってきます』って言うんやで。」

その言葉を聞いて、パパはずっとそれを守っているんだと気付きました。

世の中では、毎日のように事故やさい害が起きています。車の事故、川での事故、とつ然の病気。昨日まで笑っていた人が、今日も元気でいられる保証はどこにもありません。だからこそ、家族みんながそろってすごせることは、本当はとても特別なことなんだと思います。

パパは、どんなにねむくても、いそがしくても、必ずぼくと目を合わせて、「行ってきます。」と言います。ぼくがねむたくてベッドから起きられない時は、そばまで来て顔をのぞいて声をかけます。そして、大きなうででぎゅーっとしてくれます。

その時のパパの体の温かさや、洗いたてのシャツのにおい、少し冷たい朝の空気。全部がまざって、僕の心を安心させてくれます。

たとえ前の日にぼくがおこられて、ふてくされていても、それは変わりません。パパはいつも同じように抱きしめてくれます。まるで、

「今日も一日元気でな。」

というメッセージを体ごと受け取っているようです。

ぼくも学校へ行く前には、必ず行ってきますと言うようにしています。ねむたくて声が小さくなる日もあるし、急いでいてバタバタしている日もあります。それでも必ず言います。それは、パパとばあちゃんが教えてくれた大切な約束だからです。

もしほくが大人になって、一人ぐらしをしたり、けっこんして家族ができたりしても、この習かんは続けたいと思います。

そして、自分の子どもたちにも

「当たり前に会えることは、当たり前じゃないんだよ。だから、毎日、『行ってきます』って言おうね。」

と伝えたいです。

「行ってきます。」は、ただのあいさつじゃなくて、相手を思う気持ちや、また会おうねという約束のようなものだと、ぼくは思います。

パパが毎日のようにしてくれるぎゅーは、言葉だけでは伝えきれないやさしさと安心をくれます。そのいっしゅんのおかげで、ぼくは毎日が安心でいっぱいの一日になります。パパの背中を見て育つぼくも、きっと同じように家族を大事にする大人になりたいです。

だからこれからも、どんな日でも、ぼくは家を出るときには笑顔で、

「行ってきます。」

と言います。それがぼくの小さな決意であり、パパから受け取った大切な宝物だからです。

小学校低学年の部  
優秀賞

こころをゆたかにそだてるいえ  
米原市立米原小学校  
1年 オーピア・ジャナ・バラスタ

ことしのなつやすみ、わたしは、フィリピンのおじいちゃんとおばあちゃんののうじょうにいきました。たんぼで、いねややさい、はなをうえて、どろんこのみずにあしをいれるのがとてもたのしかったです。

いえでは、さらをあらったり、ふくをたたんだり、ゆかやにわをはきました。やぎやにわとり、うしにえさをあげるのもすきでした。どうぶつがうれしそうで、わたしもうれしくなりました。

あそぶのもたのしかったです。かぞくとバドミントンやゲームをして、いっぱいわらいました。おじいちゃんのトラクターやトラックにのるのも、ぼうけんみ

たいでした。

うみやプール、ジャグジーでおよぎ、かにやレチョン、くだものをたべました。みんなでいっしょにたべると、とてもおいしかったです。

このなつ、わたしはまなんだことがあります。それは、いえは、かべややねだけではなく、やさしさとあいでできているということです。フィリピンのおじいちゃんおばあちゃんのいえですごして、こころがゆたかになりました。

小学校低学年の部

優秀賞

ぼくのかわいいいもうと

長浜市立神照小学校

2年 伊吹 咲人

ぼくは、4月にいもうとが生まれたので、家ぞく5人でくらしています。

ぼくは、小さい子がすきなので、ママのおなかに赤ちゃんがいると聞いたときは、なけるくらいうれしかったです。おとうとが生まれたときぼくはまだ1才で、あまりおぼえていなかったので、いもうとが生まれてきててくれて、まいにちおせわをするのがたのしいです。夏休みのしごとも、赤ちゃんがおふろからあがってくる手つだいをする、にしています。さいしょはかるかったけど、今はすごくおもたくなってきて、少したいへんになってきました。でも、まだまだ小さいので、おせわをすることをやめることはでき

ません。だから、まい日がんばっています。

いもうとがおしゃべりしてくれたり、えがおを見せてくれたりすると、しあわせな気もちになります。

今はなくときもあるけど、ママが、

「赤ちゃんはなくのがしごとだよ。」

と言ってくれたので、いもうともまい日がんばっていてすごいなと思っています。まだ文字はよめないけど、絵本をよんく述べを教えてあげたり、ハイハイができるようになったら、いっしょにハイハイレースなどをしてあそんであげたりしたいです。お人形みたいにかわいいいもうとが、ぼくは大好きです。

これからも家ぞく5人でわらってしあわせにくらしていきたいです。

小学校低学年の部

優秀賞

思いやり

高島市立安曇小学校

2年 早藤 悠叶  
はやふじ ゆうと

学校でそだてたミニトマトのなえをもってかえって、いえでそだてているうちにミニトマトがオレンジ色になってきました。つぎの日よく見ると、4こ色がオレンジ色から赤くなっていました。ぼくは、そのミニトマトを4こどって、おさらにおいてぶつだんにおそなえしました。手を合わせて「なもあみだぶつ、なもあみだぶつ、なもあみだぶつ…。」

思いつきました。「このミニトマトをひいじいちゃんに二こもっていこう。」のこった2このミニトマトは、ぼくが切ってじいじ、ばあばにもあげました。「おいしいなあ。すっぱいなあ。」と言っていました。

ひいじいちゃんはしせつにいるので、会いにいってミニトマトをたべてもらいました。目をとじながらムシャムシャとたべてま

した。「おいしいなあ」「上手に作ったなあ」とわらっていました。かわはかたいので、口からはき出していました。ひいばあちゃんは食べられないので、ひいじいちゃんが2こともよろこんでたべてくれました。ひいじいちゃんは、おこめや、やさいを作つてうついた人だったそうです。

今年の七夕の日には、かざりをつけたササを2本もつていきました。ひいじいちゃんは、「ゆうとくん、がくとくん、元気に学校に行ってください。2人なかよく」とふるえる手で一生けんめいたんざくに書いてくれました。ひいじいちゃんの車イスにササをつけて、外でさんぽしました。「かぜがきもちいいなあ」と言ってました。

これからもひいじいちゃん、ひいばあちゃんに会いにいきます。絵やお手がみもわたします。車イスは、ぼくがおします。

## 小学校中学年の部

### 優秀賞

#### 家族でがんばったなぎなたまつり

守山市立小津小学校

さわだ こうすけ

3年 澤田 紘佑

うちは、お父さんとお母さんとぼく、おじいちゃんとおばあちゃんの5人家族です。

ぼくの住む山賀町は、8年に1回小津神社のなぎなたまつりの当番がまわってきます。去年は山賀の当番で、ぼくは本だいこで出ました。

ぼくのおじいちゃんは戦後はじめてのまつりでたいこで出た人です。それからずっと山賀町が当番のたびにたいこの指どう者としてなぎなたまつりに関わっていました。もう80才をこえているので教えるのはむりだと言っていましたが、ぼくが出ることになったので教えるために毎日ウォーキングをしたり畠仕事をしたりして健康に気をつけて教えてくれました。それがとてもうれしかったです。

お父さんは、祭礼委員という祭りを成功させるための役員をしました。

練習では、おじいちゃんに何度もお手本でおどってもらいました。80才をこえているのにとてもきれいなおどりでかっこよかったです、ぼくもあんなふうにおどれるようになりたいと思いました。

また、音頭がわかつていないとたいこは上手に打てないと言っていたので、ちゃんとおぼえられるか不安だったけど、毎日お母さんが歌ってくれたのでいつのまにかおぼえることができました。

実さいに町内の人たちといっしょに練習すると、家では上手にできるのに、バチがたいこにうまくあたらず手がたいこに当たってしまってこわいと思うこともありました。不安だしめんどくさいからやめてしまいたいと思うこともありました。でもぼくは一度も練習を休みませんでした。なぜなら、おじいちゃんみたいにきれいなおどりをおどれるようになりたいと思ったからです。

ぼくが祭りで使ったバチは、おじいちゃんが66年前に祭りに出たときに使ったものです。ぼくが出来ことになったので、うるしをぬり直して使えるようにしてくれました。また、よい宮で着た着物はお母さんがお宮参りと七五三で着た着物です。本だいこは明るい色の着物なので女の子用で作るそうです。

ぼくは祭りに出ることだけでなく、バチや着物もおじいちゃんやお母さんから受けついだことになります。

この祭りはぼくだけじゃなくて、家族だけでもなくたくさん的人にさせてもらったおかげで成功しました。練習中はしかられればかりでうまくいかず不安だったけど、本番はみんなからすごく上手だったとほめられてうれしかったし達成感がありました。

また次に山賀の当番が来るときも、たいこをやりたいと思っています。次の本だいこで出る子に教えてあげられるようにしておきたいと思います。

## 小学校中学年の部

### 優秀賞

豊かな心をはぐくむ家ていづくり

大津市立晴嵐小学校

たにざき あさひ  
3年 谷崎 旭

わたしの家は、父と母とわたし、妹、弟、妹、弟の7人家族です。ときどきけんかもしますが、わたしは自分の家族が大好きです。なぜなら、たくさんのえ顔があるからです。わたしが思う「豊かな心」とは、え顔になることだと思います。え顔になると幸せな気持ちになるからです。

わたしの家では、毎日夕ごはんのときに、家族でテーブルをかこみます。学校であったことや弟や妹は、ほいく園であったことなどを話します。おもしろい話になると、自ぜんとえ顔があふれます。夕食後はみんなでトランプなどをして遊びます。遊んでいると、自ぜんとえ顔があふれます。時間があれば遊ぶことができますが、時間がないとみんなで遊ぶことができません。そのため、家族できょう力することが大切だと思います。

わたしの家では、平日はごはんの用意、おふろそうじ、せんたくはわたしや小学生の妹がたんとうしています。またほいく園じの弟や妹はげんかんのそうじ、みんなでおもちゃのかたづけをしています。家族のみんなできょう力をすると時間がてきて、楽しく遊ぶことができます。

家族みんなできょう力すると、父と母は

ありがとうございます。また、母はごはんを作ってくれるので、「ありがとう」と言います。父はべん強を教えてくれるので「ありがとう」と言います。妹がティッシュをとってくれるので「ありがとう」と言います。弟が使っている物をかしてくれるので「ありがとう」と言います。小さな事でも感しゃの気持ちをつたえると、自分もあたたかい気持ちになり、相手もえ顔になります。

自分がえ顔になると幸せな気持ちになりますが、家族がえ顔になることもうれしく思います。一番下の弟は、ボールをころがして遊んだり、風船をなげて遊ぶとわらってくれます。まだはいはいしかできない赤ちゃんなのですが、え顔だとよろこんでいるのがわかり、わたしもうれしくなります。

でも、楽しいことばかりではありません。けんかをよくしてしまいます。家のおもちゃを使おうとしたら、妹も同じおもちゃを使いたいのでとり合いになってしましました。とり合いになると、けんかになり、さい後は、妹がないしていました。けんかをしているときは、え顔がないし、いらだちや悲しい気持ちになります。そのため、けんかはなるべくなくしていきたいと思います。

豊かな心をはぐくむ家ていとは、おたがいを思いやり、感しゃし、きょう力し、え顔であふれる家ていだと思います。そのためには、家族の会話やありがとうの言葉が大切です。わたしは、これからも家族といっしょに、心があたたかくなる家を作っていきたいです。

小学校中学年の部  
優秀賞

言葉でつながる家族のきずな

豊郷町立豊郷小学校  
あまの みお  
4年 天野 瑞鳳

わたしには、家族で大切にしていることがあります。わたしの家族が大切にしていることは、気持ちを言葉にして伝えることです。いつもいっしょにいる家族でも、気持ちを言葉にして伝えないと伝わらないからです。

一つ目は、あいさつの言葉です。わたしは、朝早く起きてお父さんやお母さんに「おはよう。」と言っています。朝、顔を見て「おはよう。」と言うと今日1日がんばりますという印にもなっていてすごく元気が出ます。また、ご飯のときには「いただきます。」「ごちそうさま。」としっかり家族で言っています。そして「いただきます。」や「ごちそうさま。」は保育園のとき園長先生から学んだ言葉です。多くの命とみな様のおかげで毎日このごちそうをいただけます。作ってくれた人への感しゃや命をいただいているありがたさを感じて言っています。「みんなでするあいさつ。」はわたしの心のえいようです。

二つ目は、「ありがとう。」と「ごめんなさい。」の言葉を伝えることです。何かをしてもらったときはあたり前と思わずにしっかり「ありがとう。」と言いたいし、悪いことをしたときにはすなおに「ごめんなさい。」と言うように心がけています。例えば、わた

しは習い事をしていますが、お父さんかお母さんが毎日習い事へ送ってくれます。その時には、必ず「ありがとうございます。」と伝えています。また、ふだんは仲がいい家族ですが、ときどきけんかをする日があります。けんかをしてしまったら、必ず「ごめんなさい。」と伝えています。「ごめんなさい。」を伝えることで、次の日には仲直りしています。「ありがとうございます。」や「ごめんなさい。」は家族が仲よくいられるま法の言葉です。

三つ目は、愛じようを伝える言葉です。お父さんとお母さんに「大好き。」と言ふと、にっこりわらってだきしめてくれます。わたしには、それがとてもうれしいです。言葉で伝えるだけではなく気持ちをこめて言うことで、愛じようがつまった言葉になります。愛じようがつまった言葉を話すことで、家族があたたかい空気に包まれ、心と心がつながる感じがします。

気持ちを言葉にして伝えることで、家族とのきずなが深まりました。昔は、気持ちを言葉にして伝えることが苦手だったけれど、お母さんや園長先生が気持ちを伝えることの大切さを教えてくれました。それからは、気持ちを言葉にして伝えられるようにがんばっています。

これからいろいろなことがあると思うけれど、今まで大切にしてきた言葉でこれからも、家族とのきずなをより深めていきたいです。そのためには今日も「ありがとうございます。」「大好き。」を伝えます。

小学校高学年の部  
優秀賞

ぼくの大切な四人の家族

彦根市立旭森小学校  
5年 鹿田 一葵

「お父さん、明日からフィリピンに行くから空港にお見送りに来てくれる？」  
ある日、お父さんがそう言った。

ぼくのお父さんは、単身赴任で5年間フィリピンに行っていた。フィリピンに行くことは、前から教えてくれていたけれど、ぼくはあまり分かっていなかった。まだぼくが保育園の年長だったからかもしれない。

お見送りに行った日のことは、今でも覚えている。フィリピンに行く当日は、飛行機の時間が朝早かつたので、前日に名古屋でお泊まりをした。お母さんと1つ下の妹と、ぼくの着替えを入れた大きなカバンを、大きなスーツケースを引いていたお父さんが持って、新幹線で名古屋まで行った。ぼくは少し旅行気分で、うきうきしていた。夜ご飯は、手羽先を食べに行って家族4人で写真をとった。その日はホテルのベッドで4人ならんでねた。いつも笑っているお父さんとお母さんは、少しだけ笑顔が少なかったよう思った。

次の日早起きをして、電車で空港に向かった。みんなの口数がどんどん少なくなっていて、ぼくもうきうきした気持ちがなくなって、「もうすぐお父さんとお別れなんだな」と思い、さびしい気持ちになった。

空港に着き、お父さんといよいよお別れのとき、お父さんが家族1人ずつギュっとだきしめてくれた。帰りの電車で、お母さんは泣いていた。ぼくもそれを見て、泣いてしまった。1つ下の妹はまだよく分か

っていないのか、ぼくとお母さんをじっと見ていた。行く時はお父さんが持ってくれていたカバンを、お母さんが重そうに持ってくれていた。お母さんが「これからは3人でがんばろうね」と言ってくれて、ぼくはうれしくなった。

その日の夜から3人の生活が始まった。その日の夜ご飯は3人で食たくを囲み、ねる時も3人になり、お父さんがいないとこんなにさびしいのかと思った。

その年の保育園の卒園式も小学校の入学式も、ほかのお家はお父さんとお母さん両方参加している中で、ぼくの家族はお母さんだけだった。もちろん運動会も音楽会も親子活動も学習参観も、お母さん1人だった。

お母さんは学校の行事は、体調が悪くても仕事がいそがしくても欠かさずに来てくれた。ご飯も作ってくれたし、そうじもせんたくもがんばってやってくれていた。ぼくも少しでも助けになるようにお手伝いをした。

お父さんも1年に1回は2週間ぐらい帰ってきてくれたけど、やはりまたすぐに帰ってしまうんだと思つてしまい、心のそこから喜べない自分がいた。

5年生になった今年の4月、お父さんがやっと帰国した。お父さんがいると、家の中がいつもよりにぎやかになるし、笑顔も増えたように思う。お母さんは、お父さんが飲むお酒を買いに行かなくちゃとブツブツ言っているけど、どことなくうれしそうに見えた。学習参観もお父さんとお母さんが2人そろって見に来てくれた。学校にお父さんがいることは、少し不思議な感じがしたけど、すごくうれしかった。

これから先、お父さんが二度と海外に行かないとは限らない。何が起こるかは今は分からないけど、この家族4人の今の生活を1日1日大事にして、大切にすごしていきたいと思う。

## 小学校高学年の部

優秀賞

### ぼくは反こう期

近江八幡市立八幡小学校

5年 松井 奏  
まつい そう

ぼくは今、反こう期です。お母さんが言うには、3年生の時くらいから反こう期に片足をつっこみはじめ、今では体半分くらい入っているそうです。特に、お父さんに対してイライラして口ごたえしてしまいます。ぼくは、お父さんがうるさくて仕方ありません。

どういう時にイライラするのかというと、お父さんに注意された時です。例えば、食事のマナーが悪いとか、テレビを見過ぎているとか、文字がきたないとか、部屋が散らかっているとか、ピアノをえん奏していてミスをしたら、そこを集中して練習していないとか、弟や妹に手を出したとか……。思い出そうすると、きりがありません。たくさん注意されるので、イライラするし、舌打ちすることだってあります。怒られたくないで、うそをついてしまったこともあるし、話すのがめんどくさいと思って、無視することもあります。イライラが止まらなくて、お父さんにきつく言い返したことだってあります。

お父さんはなぜ、こんなにぼくに注意を連発してくれるのだろうと考えました。だって、弟や妹には、こんなに言わないのに、ぼくにだけ……。お父さんは、ひょっとしてぼくのことを好きじゃなくて、きらいなのだろうか。8歳下の妹は、ぼくよりやんちゃだし、すぐにおもちゃを散らかすし、気に入らないことがあると、たたいてきたりかんだりしてくるのに、そんなに怒られない気がします。おかしい。ぼくはそんなお父さんことをますますいやだと思ってしまいます。

それに比べ、お母さんに対してはそんなにイライ

ラしないのはなぜかとも考えました。お母さんは、はっきり言ってこわいです。ふだんは、にこにこしているし、おいしいご飯を作ってくれるお母さんです。しかし、怒ったら、とにかくこわい。ただ、ビシッ!と怒るから、ぼくは反省しやすいのかもしれません。そう考えると、ぼくは、お父さんの注意の仕方がいやなのかもしれないと気がつきました。

お母さんの実家に帰ると、おじいちゃんやおばあちゃんは、ぼくのことをよくほめしてくれます。一番上の兄ちゃんだからしっかりしているとか、食べ方がきれいだと、下の子のめんどうをやさしく見ているとか言ってくれます。いつもお父さんに注意されることばかりをほめてくれるので、不思議でたまりません。よく考えてみると、お父さんは、ぼくが4人きょうだいの一番上だからしっかりしてほしいし、みんなにやさしい人になってほしいと強く思っているから、注意を連発しているのかもしれません。

ところで、ぼくは、お父さんにいつも反こうばかりしているわけではありません。ぼくとお父さんには共通のしゅ味があります。それは、電車と卓球です。お父さんと2人だけで電車で出かけることが大好きです。その時はイライラせず、楽しくおしゃべりできます。卓球もいっしょに習いに行くくらい、2人でがんばっています。お父さんはマラソンも得意で、ぼくが小さいころは大会に出場して、応えんに行ったこともあります。ギターも上手で、発表会を見にいくと、めちゃくちゃかっこいいお父さんがステージの上にいます。

ぼくはこれからも、イライラしたり、うそをついたりするかもしれません。でも、注意されることが少しずつでもへっていくよう、意識していきたいと思います。だからお父さんも、言い方を気をつけてほしいです。そしてまたいっしょに電車に乗って出かけたり、卓球の練習をしたり大会に出たりしたいです。

今は反こう期だからすなおに言えないけど、いつもごめんね。本当はお父さんのこと、大好きだよ。

## 小学校高学年の部

### 優秀賞

小さな私の思い出  
長浜市立速水小学校  
5年 山下 晃生

やました みつき

私のお兄ちゃんが生まれた時、おばあちゃんは、

「この子が小学生になるまで、生きてなあかんな。」

と、言ったそうです。それなのに、そのお兄ちゃんは、今ではもう高校生になりました。この話はうちの家族の笑い話となっています。なぜなら、私の目の前に元気なおばあちゃんがいるからです。

おばあちゃんは、まごに協力的すぎます。私が、

「おばあちゃんみたいにあみものしてみたい。」と言ったら自分もいっしょにやりながらあみ方を教えてくれます。少しずつ上手くなるたびに、ものすごく喜んでほめてくれるのがうれしくて、私はもっとやりたくなります。この夏はあみものでカバンを作れたらいいなと思います。

こうやって私が作ったものをおばあちゃんにあげると、絶対に喜んでどこかにかざってくれます。紙ねん土で作った置き物や、フェルトをぬって作ったツリーはげんかんに、けいろうの日に家族で作ったおくりものは、リビングにあります。どんな物でも喜んでくれるたびに、まごのことがものすごく大切で、大好きなんだと分かります。

おばあちゃんの料理はとっても愛がこめられています。この愛を、うちの家族は『手のだし』とよんでいて、とくにそれが分かるのはおにぎりです。同じお米でも、まったく味が変わります。たまごのすまじるにでも『手のだし』

がたっぷり入っています。お母さんは、未だにすまじるは本当に勝てないとくやしんでいます。その敗因は『手のだし』がまだまだ足りないからだとお兄ちゃんと話しています。『手のだし』が入っている料理はまだまだあって私が一番好きなのはうどんが入った茶わんむしで、いつもリクエストしています。

そんなおばあちゃんの愛情を一番感じた出来事があります。

私が小さい時に、こどもえんでねつを出してしまい、おばあちゃんがむかえに来てくれたことがありました。その時の車内がすべて、私のためだけにセッティングされていました。小さな時の私の好きな物をすべてつめこみ、乗ったしゅんかん、ほっと安心できる空間になっていました。車のシートには、私のお気に入りの毛布とブランケットがありました。そのころとってもお気に入りだった、目がクリクリでとってもかわいい白ギツネのぬいぐるみも、耳もとにおいてありました。信号で止まった時に後ろをみて、私が無事かかくにんしてくれた顔は、心配そうでもあり、私を安心させようと、目を見て何度もうなずいてくれたことを覚えてています。こどもえんからおばあちゃんの家までは20分ぐらいかかります。それでもその時の体感は、5分もないくらいいっしゅんでした。おばあちゃんが安心させてくれたおかげで、そう思えたのだと思います。

いつも私たちまごを見たしゅんかんに、おばあちゃんの顔はぱあっと明るく笑顔になります。その笑顔を見ると、私の心もぱっと晴れます。その2人を見て、おじいちゃんもぱあっと笑顔になります。私はそれを『笑顔の伝せん』と呼んでいます。その時、おじいちゃんおばあちゃんは、私のことが本当に大好きなんだなと感じられます。そう感じられることに、とっても感謝したいです。

おばあちゃんは、もう車の運転を卒業しました。でも、もう一度乗ってみたいです。あの安心した2人だけの車内に。